

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第101回放送の概要 (2015年8月29日放送)

パーソナリティ

さくら
(安本久美子)
たろう
(佃 由晃)
なか
(中嶋邦弘)
かりん
(妹尾優香)
あな
(岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん
(門田成延)

相談役

わだかん
(和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 今年で創業 92 周年を迎えたエキストラコーヒーでは、神戸のヒストリアン、田辺真人先生のラベルデザインによるカフェオレベースを好評発売中…夏バテ予防に、お役立てください。本日はエキストラ珈琲様 (TEL078-671-0135) のご協力をいただきました。

(CM) 川柳は見た、聞いた方がどのように解釈しようと全く自由です。では川柳を三句、

「ゆうかりに想いを懸けて多土済々」

「酔い醒めて昨夜の修羅場そっと聞き」

「宿帳に夫婦と書いた字が乱れ」

本日は、このような川柳を徒然なるままに作って遊んでいる川柳同好会様のご協力を頂きました。

1. ゲストコーナー (1) 公認会計士 金志煥さん (64 陽会)、山口昭彦さん (64 陽会)

ゲストコーナーの始まる前に、前回の 100 回記念放送で多くのメッセージを紹介しましたが、紹介出来なかった FMわいわい総合プロデューサー金千秋さんのメッセージを紹介します。

「ゆうかりに乾杯のオープニングを作る時に色々な人が集まり、乾杯の発声をしたとの要望を元に音作りをした事が印象的で、番組のイントロに兵庫高校の応援歌を入れた事は、自分達の学校を愛する、地域(場所)を愛する気持ちを、記憶と共にその形を番組として繋いでいくことで、これは FMわいわいの求めている、放送ではなく、場として人を繋いでいく、繋がりがどんどん広がっていくというコミュニティラジオの使い方を上手に展開している。放送しているだけでなく、コミュニティラジオの意味をよく使いこなしている。これを出来れば上の世代だけでなく、下の世代へもどんどん繋いでほしい。場が時代を越えて繋がると思う。」

ゆうかり放送委員会としては、今後更に人と人を繋げる場を意識した番組を目指したいと思います。

本日のメインゲストは、公認会計士の金志煥さんですが、3年前の53回放送に出演頂いた、兵庫高校時代同級生の山口昭彦さんにもご出演頂きました。

2人は1年生が同じクラスで、1学期の期末試験の数学、物理の成績が2人とも3~4点で、ともに自分の成績に衝撃を受けたが、仲間と思うようになった。この頃から2人は資格試験に取り組む事を考え、3~4点の成績を励まし合って上げてきた。山口さんは東京の大学に金さんより1年早く進学し、受験で上京した金さんを車で案内した事があるが、古い車のため途中で動かなくなり車を乗り捨てた苦い記憶がある。

高校時代の部活は、金さんが野球、山口さんは柔道で、神戸高校と春、秋に定期戦があり、春は野球の試合、秋は柔道があったので、互いに応援しあった。金さんはポジションがファーストで、金さんが入学前は神戸高校に負け続けていた。金さんの入部した年から卒業するまで負けなしだった。野球は私立が強いが、柔道は兵庫高校が強く、県大会個人戦で2、3位の人がいた。野球は秋の県大会で報徳学園と試合をしたことがいまでも強く思い出として残っている。

金さんが公認会計士の道を選んだのは、日本で生まれ育ったが韓国籍で、仕事をしようとする場合、普通会社より資格を持って勝負したいという思いがあったからである。大学受験頃からそのような思いが強くなった。

公認会計士の資格を取得できるのは、当時受験者3000人~4000人の時に、合格者は200~300人であった(合格率は6~8%)。1年で合格するのは難しく、やり続けてやっと合格する試験であった。試験科目は7科目(簿記、財務諸表、監査、原価計算、経営、経済、商法)で、7科目を一度に受験し、合格する必要があった。今の試験制度は、共通1次のように2段階の試験を受けるやり方になっている。金さんは公認会計士の資格を卒業2年後に取得した。資格取得のためには大学の勉強以外に専門学校で勉強する必要がある(ダブルスクール)。

資格取得後監査法人に就職し、色んな会社の監査を行った。監査の仕事は、会社の貸借対照表などの財務諸表を会計のルールに従ってチェックし、決算書が適正に表示されているかどうかを判断するのが監査人の仕事である。監査は、株式公開をしている会社等の場合、財務諸表規則等に従って作成されたものを領収書、契約書などの帳票をチェックするだけでなく、会社が現場で行う棚卸に立ち会うことがある。現場の例としては、木材の商社が港の貯木場に保管している材木の棚卸の立会に行ったことがあり、材木の上に乗る、海に落ちるのではないかという危ない思いをしながら監査を行ったこともあった。

監査法人で仕事をした後、今は個人会計事務所を持っている。個人で行う会計事務所の仕事は、税理士と似た仕事、M&A、コンサルティングなどの様々な仕事があるが、金さんは監査法人の仕事をしている時に、自治体、公益法人、独立行政法人、などパブリック部門の監査、コンサルティングをした経験からこの分野の仕事をメインに選んだ。非営利法人であるNPO法人、公益法人、社会福祉法人などの支援をしたいと考えている。

2. ミュージック：花～全ての人に心の花を～ 作詞作曲：喜納昌吉 歌：乙女椿

乙女椿さんのアルバム「沖縄のうた」から「花～すべての人の心に花を～」をお届けします。沖縄県出身の歌手、平和運動家、政治家であり作詞家、作曲家でもある喜納昌吉の代表的な楽曲です。長い間マイナーな存在であったが、1990年におおたか清流が歌うバージョンがCMに使われ話題になったり、1995年に石嶺聡子によるカバーがヒットしたことをきっかけに、現在では沖縄を代表する曲となっています。また、日本国内はもちろん、台湾、タイ、ベトナム、アルゼンチンをはじめ世界60か国以上で、多数のアーティストにカバーされています。1999年の調べでは、全世界で3000万枚を売り上げたそうです。2006年、文化庁により日本の歌百選に選定されています。「すべての人の心に花を」というフレーズは1964年東京五輪のアナウンサーの実況がもとになっています。



3. ゲストコーナ (2)

山口さんは県庁で財務関係の内部監査をする、監査員事務局で仕事をしていたことがある。山口さんが在籍した頃は内部監査がメインであったが、その後平成10年頃から自治体で官官接待などの問題が全国的にあり、外部監査が必要になり、金さんのような公認会計士等の外部監査を受けるようになった。

東芝、オリンパスの問題については、コーポレートガバナンスが機能していなかったと言われる。コーポレートガバナンスとは、代表取締役の執行を監視するために、社外取締役、社外監査役、監査委員等の設置会社では、委員会がチェックすることである。監査役の役目は内部の業務チェックというより役員者のチェックが重要になる。今問題になっている東芝の場合、財務担当役員が監査委員長に就任するといったガバナンスが骨抜きになっていたと指摘されている。会社がコーポレートガバナンスの仕組みを作っても、魂が入っていないと機能しなかったのが東芝の例と言えるかもしれない。しかしこれは外部からは窺い知れない問題である。

監査に関わる費用は監査を受けている会社側の負担になる。日本の監査制度はアメリカの制度を導入しており、監査を受ける会社から報酬をもらう仕組みもそのまま導入している。報酬については、アメリカは多民族国家で、外部のチェックを受けることに対し、相当の監査料を支払うことは当然という共通認識が存在する。公認会計士としてはそのような報酬をもらっていても手心を加えることはなく、そうしなければ公認会計士の社会的信頼を失うことになる。

監査とは関係ないがシャープの問題について、資本金を減資すると言っているがその意味はどういうところにあるかについて、新聞情報では資本金を1億円に減資するそうだが、1億円に減資すると税金の特典があり節税につながる。しかし会社の規模に応じた資本金であるべきで、そうでないと安心して取引できる会社とは思われぬし、税務上のメリットだけで減資するのは、企業の社会的責任を果たし

ていると言えるかどうか分からない。(注：シャープは最終的には資本金を5億円に減資している。)

今公認会計士として、パブリック部門の仕事をしているが、ボランティアとして福祉関係についても関わっている。これはアメリカからスタートした「プロボノ（公共善のために）」という考え方で、広報、マーケティング、財務などのスキルを持った専門家が、福祉関係などのNPO団体に対しボランティアで支援するものである。サービスグラントという中間支援の団体に所属し、プロボノのワーカーとして登録し、NPOを支援している。その団体には民間会社の社員や公的機関の職員など、色んな経歴の持主が所属している。

3年前よりNPOの支援を始めているが、関与した団体は、成年後見事業をしている「かなびの丘」と、一人親家庭の子供に対し、比較的安い料金で塾での勉強をさせている「あっとすくーる」という団体である。

NPO 法人「かなびの丘」は、金剛コロニー（大阪府富田林市にある知的障がい者施設）の保護者会を母体として2005年に発足した。主に知的障害者の方の金銭管理事業、正常な判断が出来ない方に対する財産管理と身上看護に関わる成年後見事業をしている団体である。最近金銭管理事業が減少傾向にあり、今後の事業展開をどうすべきかについてアドバイスが欲しいという要請があった。NPOは元々採算を採るのが難しく、収入基盤が厳しい所が多い。しかし事業として続けて行くために、採算が合う事業をどのようにやっていくのかを考えるのは民間企業と同じである。かなびの丘に対してはプロボノとして半年間支援してきた。その後のサポートをする仕組みはないので、支援を受けた団体と個別にやるしかない。金さんは今では支援していないが、その団体とは評議員として関わりを続けている。

NPO法人「あっとすくーる」について、日本の子供の貧困率は6人に1人で、特に1人親家庭はその半分が貧困家庭と言われている。「あっとすくーる」は、塾に行くお金がないなど経済的に困窮している家庭の勉強をしたい子供に対して、安価な料金で普通の子供と同じように塾で勉強してもらうための支援をしている。山口さんは県庁勤務で子供の貧困については直接関係はなかったが、皮膚感覚で感じることはあった。婚姻の数と離婚の数を見ていると自分の子供時代に比べ子供の貧困が増えているように思った。

「あっとすくーる」は、必要な資金をクラウドファンディングを使って集めているとHPに書かれている。クラウドファンディングは、運営会社に企画書を提出し、事業計画に共感を持つ人に寄付などの資金を集めるもので、目標金額を定め（あっとすくーるは50万円）、寄付が50万円を越えればその金額は企画した人に渡るが、50万円に達しない場合は0円になるというもので、あっとすくーるの場合は目標金額を越える事が出来た。

金さんは野球部で活躍されたので、兵庫高校の野球に関する話題として、今年は高校野球の100周年にあたり、第1回の甲子園大会に出場した10校が、12月19日、20日の2日間甲子園に集まりOB戦を行うことにしており、兵庫高校も出場する。その試合には金さんも選手として出場する。

4. 地域瓦版

- ・明日 8月30日(日)、13時～18時、御旅祭が生田神社兵庫宮境内で開催されます。
- ・昨日より 31日(月)まで、19時開演で長田神社で野外劇団「楽市楽座」の音楽劇、今年の新作「バードフラワー」の公演があります。この劇団は旅廻りの3人家族に、毎回違うゲストを迎えています。入場料はありませんが、投げ銭で歓迎します。
- ・武陽会コンサートが9月19日(土)、ライブハウス神戸 108で、15時30分開演、入場料は無料です。現役兵庫高校生及びOBの100、101、102、69陽会(INA2011)、総計9バンドが出演します。



ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>